

みやぎの 林業だより



特集

みやぎの林業の成長産業化実現に向けて！

県内の林業・木材産業は東日本大震災で甚大な被害を受けましたが、関係者の努力や幅広い支援を受け早期の復旧を果たしました。復興の進展と共に県内の住宅着工戸数も増加傾向で推移し、林業・木材産業の再生が進んでいます。

しかし、わが国は今後、急速な高齢化と人口減少が予想されており、本県でも住宅需要の大幅な増加を見込むことは困難な情勢にあります。森林資源が成熟し利用期を迎える中、林業・木材産業は大きな変化を求められています。こうした中、宮城県では平成30年度を始期とする、仮称「新みやぎ森林・林業の将来ビジョン」の策定を進めています。

これから宮城県の林業の進むべき方向性は如何に。本誌では、そのヒントを探るべく、本号から6回シリーズで独自の視点や取組で活躍しているリーダー達から話を聴きます。

- ◎石巻地区森林組合 参事 大内伸之さん…………… 2
- ◎セイホク株式会社 専務取締役 相澤秀郎さん…………… 4
- ◎東北大学大学院 工学研究科 教授 前田匡樹さん…………… 6

目次

話 題	◎新たな県産材の活用「CLT」の普及を推進しています…………… 8
	◎産学官連携の「CLTモデル施設」が建設されます…………… 8
	◎「南三陸町の復興商店街オープン」…………… 9
	◎栗駒高原森林まつりが開催されました…………… 9
	◎松くい虫被害材の有効活用～バイオマスボイラー稼働～…………… 10
	◎竹の伐採現場に密着取材！…………… 10
	◎シカに負けないワラビ栽培！…………… 11
	◎大崎市鳴子温泉郷に「ゆの駅しんとろ」直売所が開業しました…………… 11
	◎「宮城の原木椎茸見学ツアー」を開催…………… 12
	◎安全な特用林産物の供給についてのごお願い…………… 12
	◎林道二口線の整備について…………… 13
	◎再び荒浜地区の憩いの場所へ 蛭塚植樹祭の開催…………… 13
	◎松島の松くい虫対策について…………… 14
	◎「仙台トヨペットふれあいグリーンキャンペーン」 緑化木贈呈式について…………… 14
	◎「市民参加の新たな森林づくり・春」植樹祭を開催…………… 15
	◎コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト (うるおいの森づく in 蔵王)の活動について…………… 15
	◎平成29年度林業試験研究及び種苗生産計画の概要…………… 16
市 況	◎木材市況の動向・特産市況の動向…………… 17



平成29年8月28日
発行

212号

表紙写真

- ★(左上)石巻地区森林組合職員青年部(メッサ石巻) <関連記事P2～3>
- ★(左上)セイホク株式会社の合板の新品ver <関連記事P4～5>
- ★(左上)セイホク株式会社で生産するコンテナ苗 <関連記事P4～5>
- ★(右上)東北大学セミナールーム完成イメージ <関連記事P6～7,8>
- ★(右下)市民参加の森林づくり,コカ・コーラプロジェクト <関連記事P15>

森林を育てる。 それが私たちの仕事

— 森林施業管理委託を推進 —

石巻地区森林組合 参事
おお うち のぶ ゆき
大内伸之さん



— 組合の事業概要は？ —

石巻地区の森林面積は約四万ヘクタールで、このうち民有林は三万一千ヘクタールである。組合加入面積は約二万二千ヘクタールで、民有林面積の七割が組合に加入していた。平成二十八年度の取扱額は約二十八億円。内訳は販売部門二十一億円、森林整備部門五億円、リサイクル部門二億円である。販売部門は前年比で半減しているが、これは高台移転が終了したため織り込み済みの数値。震災前の水準はきちんと確保している。また、海岸線の植栽などで森林整備部門が伸びている。

— 組合が取り組んでいる森林施業管理委託とは？ —

急に山林を相続した遺族や震災等でやむなく地域を離れた方など、山林の管理が困難になっている所有者が多い。森林所有者と十年間の長期委託契約を結び、所有者に代わって組合が責任を持って山林の管理や経営を行う。管理委託された森林は、位置や現状の調査、巡視、森林経営計画の作成を原則無料で実施する。その上で、何かしら施業が必要であれば、経費を含め所有者と協議した上で実施する。最近増えているのは、伐期を迎えた森林を

皆伐するケース。うちの組合では皆伐後に再造林し、さらに五年間下刈りをしてから所有者にお返ししている。

— 実際に施業を行う場合の費用はどうしてるか？ —

施業プランと見積書を作成し、所有者（委託者）と相談する。現場条件にもよるが、伐採・再造林を一貫施業で行えば、補助金を上手く活用することにより所有者の負担はほとんど無しで行える。所有者からもとても喜ばれている。

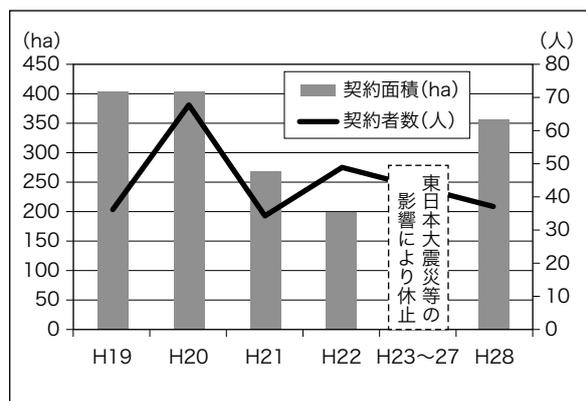
— 組合にとってのメリットは？ —

委託契約の中で、森林経営計画の作成を条件にしている。森林経営計画を作成することで次年度の事業計画が立てやすくなる。作成率の向上が図られれば、組合として中長期的な視点に立って計画的に事業を進めることが可能になる。

— これまでの契約実績は？ —

平成十九年度から取り組み始め、これまでに百八十七名、一千二百七十六ヘクタールの委託を受けている。全体面積から見ればまだまだだが、着実に増えてきている。最初に契約いただいた方たちは、ちょうど十年目であり、契約更

新について協議を進めていきたい。



森林施業管理委託の実績

— 今後の展望は？ —

石巻地域は震災で大きな被害を受けた。正直、山のことまでは構ってられないという方もいて、組合員の脱退が相次いだ。五、六十人は辞めただろうか。

これからどうすべきか。考えた末、組合員にアンケート調査を行った。すると、「組合に山林の管理を任せたい」という声を一番多く聞いた。これまでやってきたことに間違いは無かったと自信を持てた。

— 森林を育てる —

森林を育てるのが私たちの仕事



山に対する思い取り戻すまで、
組合の努力は続く

だ。持続可能な森づくりのため再造林の推進は欠かせない。昨年、佐伯広域森林組合(大分県)を訪問する機会があり、その思いを一層強くした。

佐伯広域森林組合では、年間三百ヘクタールの造林を行っている。単組で宮城県全体の造林面積よりも多い量だ。伐採は民間事業体が請け負い、その後の造林を組合が行うケースが多い。佐伯地方の人たちは「山は伐採したら植林するもの。山を放置しておくことは、みっともないことだ」という意識を昔から持っていて、それが今でも地域の中で脈々と受け継がれている

そうだ。だから伐採現場は、再造林がしやすいようにきれいに仕上げられている。そうしないと所有者から見限られ、二度と仕事を頼まれなくなるそう。佐伯地方だけでなく、昔ほどの地域だってそうだったと思う。宮城県でも、山に対するそうした思いをみんなが取り戻してくれるように、組合としても今後も努力していきたい。

―**県の(仮称)新みやぎ森林・林業の将来ビジョン策定では専門委員を務めているが?**―

県は、現行ビジョンが今年度末に終期を迎えることから、平成三十年度を始期とする新ビジョンの策定作業を進めている。内容については、県産業振興審議会と同審議会水産林業部会で審議されており、部会の専門委員として参加している。これまでに新ビジョンの基本的な柱立てである骨子が固まり、七月の部会では、事務局から中間案が示された。

新ビジョンは、人工林が本格的な利用期を迎える中で、林業・木材産業の産業力強化と森林の持つ環境機能との共存、そしてこれを支える人材の育成などが大きな柱になる。中間案では、実現に向けた様々な取組が示されたが、ここでも再造林

林は重要な課題であり、現場の意見をしっかりと伝えていきたい。また、立派なビジョンがあっても、誰がどの部分を担うのか、役割が明確でなければ実現は難しい。せっかくのビジョンが絵に描いた餅になってしまふ。特に、林業施策の中で、年々市町村の果たす役割が大きくなっており、市町村の機能強化は一つのポイントになる。是非、市町村には、これまで以上に頑張ってもらいたい。市町村がしっかりと頑張れるようなサポートのあり方も検討が必要だろう。

―**ビジョンの実現には、それを支える人材の育成も重要だが、貴組合は職員や作業班の若手に元気があ**―

メッサ石巻(組合青年部)が良い効果を生んでいる。職員や作業班の若手が集まり、地域のボランティア活動などを行っているほか、旅行にも行っている。若手同士、お互いの苦労や悩みを相談し合える場にもなっているようだ。そういう環境があることが良いのではないか。お互いに刺激をもらい切磋琢磨しようという流れになっている。待遇面では、利益が出たときは職員にも作業班にもボーナス(賞与)を出し、作業班には能力給も一部認めている。班で工夫し、効率よく早く現場

を終わらせれば、その分が稼ぎになるので、生産性向上にもつながる。退職金も林退協以外に内部積み立てをしている。頑張った成果がきちんと評価されれば、やる気も違ってくるのではないか。

―**職員や作業班員に求めることは?**―

普段、若い人たちに話していることは、職員には「作業班に信頼される職員になりなさい」ということを、作業班員に対しては「所有者に良かったと言われるような仕事をしなさい」と伝えている。例えどんなに機械化が進んだとしても、仕事をつなぐのは最後はひと。人づくりがやっぱり大事なんじゃないかなあ。当たり前のことだが、組合のための組合員ではなく、組合員のための組合でないといけない。信頼され期待される組合でありたいと思う。

プロフィール

宮城県小牛田農林高校卒業後、昭和50年に石巻地区森林組合に就職。利用課・企画管理課・総務課長・統括部長を経て現職。平成13年からは、地元大型合板工場にスギ間伐材等の供給を開始する等、川上・川下連携による地域材利用に積極的に取り組んでいる。

輸入材から国産材へ転換

— ここ石巻で復興する —

セイホク株式会社 専務取締役

あいざわ ひで お
相澤 秀郎 さん



— 震災当時の状況は？ —

御存知のとおり、津波で工場や社屋が甚大な被害を受けた。社員の中には、自宅や家族が被災した人も沢山いたから、家庭のことを優先してもらい、出社できる社員で少しずつ工場の片付けを始めた。

工場の復旧には時間がかかる。その間、ユーザーに迷惑をかけないために合板やP Bを輸入し代替することもできたが、そのまま輸入品が定着すれば、これまで築いてきた国産材利用の流れが崩れてしまうことが心配だった。

震災後三月二十二日には井上社長が石巻に到着。「我々はこれまで大勢の地元の方に御世話になってきた。だから石巻の復興のためにも、ここ石巻で必ず事業を再開する」社長に迷いはなかった。我々は、最初は一枚でも良いから、三か月以内に製品を出荷させ、必ず復興するという姿を見せようと取り組んだ。水も資材も無い中で、泥や瓦礫の片付けは本当に大変だった。市内に流失した丸太の片付けについては、林業関係者の皆様に随分御協力をいただいた。そのお陰もあって、七月二十六日に念願の合板供給を再開できた。

— 現在の会社の事業概要は？ —

震災後はL V Lの生産を千立方メートル程度に絞って、合板の方に集中している。震災前、セイホクグループで五百四十人いた社員は、現在約二百八十人と半分になっているが、生産量は合板十二ミリが三×六換算で月産二百万枚（丸太換算で約四万立方メートル）と震災前の二割増となっている。また、昨年六月にJ A S認定を取得したC L T製造ラインは、今年四月から生産を開始しており、年内には月一千立方メートル超まで生産量を引き上げたい。県内でもC L T建築物が複数計画されており問い合わせもいただいている。

— 隣県の大規模製材工場やE P A大枠合意の影響は？ —
今のところ、岩手・山形からの丸太調達に影響は出ていない。今後どうなるか多少の不安はあるが、当社で使用している宮城県産丸太の割合は、取引がスタートした頃は二十割だった。今では四十六割を占める。地元の宮城県産材が増えることは当社にとって非常に心強い。E P Aについては、P BやO S Bは国産合板と競合する。北米のアスペン（やまならし）と違い、欧州はマツを使っていて水に対する抵抗性があまり品質がよい。関税の引き下げは脅威になる。

— 人口減少で国内の住宅分野は需要減が予想されている。どのような対策を考えているか？ —
これまでは構造用合板の生産に特化していたが、ここ数年は型枠用合板とフロア用合板にも力を入れている。国産材フロア用合板の値段は二年前と同じで、構造用合板と比べても価格安定性が高い。故にフロア用合板に輸入品を使っていたユーザーも価格の変動が少ない国産材製品に徐々に切り替えている。実際、三分の一度を国産材に切り替えても良いという話をいただいている会社もある。

国内合板供給量の五十割が輸入合板であるが、輸入合板の大部分を型枠用合板とフロア用合板が占める。この三割を国産材合板に転換してもらえれば、住宅着工数で減少する分を十分にカバーできると見ている。

国産スギのフロア用合板は、当初、強度や品質の安定性などに課題があったが、いろいろ改良を加えクリアしており、今は自信を持って紹介できる商品となった。現在は、それぞれ月十五万枚くらい出荷しているが、今後はできれば月二十万～二十五万枚まで伸ばしていきたい。国産材合板は、価格の安定性に加

え、環境保全に対する関心の高まりなどで着実に支持が広がってきている。今後も国産材に転換するユーザーが増えるを期待したい。

さらに東京五輪関連施設の建築がスタートし、大手ゼネコン等から国産材針葉樹の製品を安定的に供給できるかとの問い合わせも増えている。五輪を契機に国産材合板の引き合いが増えてくれることを期待したい。

―技術面で改良した点とは?―

これまで節や割れについては、人の手でパテ埋めをやってきたが、乾燥後に凹みができってしまうことが多かった。現在は、ナイフコーターで塗料(目止め)を全面的に塗布するように改良したので、表面の滑らかさといった品質面に加え、作業効率も格段に向上した。また、針葉樹は広葉樹に比べ水分を吸って歪みや膨張が大きいので、強度があるカラマツを間に挟むことで、反りが少なく合板全体の強度を上げることができるようになった。現在では、樹種や単板の組み合わせ、含水率等をユーザーのオーダーに合わせて製造している。

なお、型枠用合板については、ユーザーから原料が針葉樹なのか広葉樹なのか分からないとの声が

あったので、表面に塗布するウレタン塗料の色を従来のオレンジの他に爽やかな緑に変えてみた(表紙写真)。是非使ってほしい。

―最近森林経営や苗木生産にも取り組まれているが?―

森林組合から紹介していただき石巻市河南地区に十一ヘクタールの山林を購入し、作業道を開設しながら間伐作業を行っている。苗木生産の方は、工場敷地内で昨年度からコナテナ苗(三百cc)の生産に取り組んでいる。一年目は失敗したが、今年度は太田清蔵さんに御指導をいただき、抵抗性クロマツ苗など約二十万本を育てており、順調に育っている。



木製パレットの上で生産している
300cc コナテナ苗(スギ実生)

きっかけは、木材を大量に消費する企業として、山側の苦労や現場の実態も理解していなければと感じていたことや、最近あちらこちらで目にする造林未採地の問題がある。当社が山を丸裸にしたと言われている困るでしょ(笑)。今年は、百五十ccのコンテナをさらに一千ケース購入し苗木の増産に取り組む予定だ。森林資源を循環利用していくためにも植林をしっかりと行っていかないと十年後、二十年後に大変なことになる。当社も再造林の取組を少しでも応援していきたい。

―現在、県は(仮称)新みやぎ森林・林業の将来ビジョンを策定中だが期待することは?―

やはり再造林を含め、将来にわたって森林資源を持続的に確保していくための施策が必要ではないか。西日本で普及しているコウヨウザンやセンダンなどの早生樹に関心を持っている。東北でも植林できなかつたものが、二十年で収穫できるとなれば革新的だ。県の林業技術総合センターで、早生樹や優良種苗の研究を是非やってほしい。例えば、共同研究という形で、当社で工場内に育苗ハウスをつくることも

できる。協力できることがあれば協力したい。

―川上・川中の信頼関係を大切にしたい―

石巻工場は、多くの支援を受け震災からの早期復旧を果たしたが、合板事業を巡る環境は厳しさを増している。今のところは合板の価格が安定しているが、競争力の強い企業になっていかなければならない。そのためには、川上、川中の信頼関係が重要だ。川上には納入原木の品質や採材面で一層の協力をお願いしたい。我々も購入単価の安定に努力したい。お互いがビジネスパートナーとして協力し合うことが双方の利益となり、宮城県全体の林業・木材産業が他地域に負けない競争力を持つのではないかと信じている。今後も皆様の御理解と御協力を得ながら、地域の復興に貢献していきたい。

プロフィール

宮城県石巻商業高校卒業後、昭和42年に西北ベニヤ工業(株)(現セイホク(株))に入社。西北プライウッド(株)常務取締役、セイホクコート(株)代表取締役社長等を経て現職。
趣味：園芸、山歩き、ゴルフ。

何気ない景色の中に 当たり前にも木構造がある街を



東北大学大学院工学研究科 教授
まえ だ まさ き
前田 匡樹 さん

—先生はRC造が御専門だが木構造に関心を持ったきっかけは？—

県で推進するCLT等普及推進協議会(以下「協議会」という)に誘われたことがきっかけ。この協議会でCLTという新素材を初めて知った。RC造はかなり成熟した技術だし、様々な形状の建物を作ることが出来る。一方、従来の木造は梁や柱など長細い線材を組み合わせて作るの、使い方が限定されていたが、CLTは大きな「面」で使える。強度が高く、三階建て四階建ての学校とか大規模な施設にも使えることを知った。さらに木材を使うことは環境負荷の低減にも貢献するし、木は日本人にとって馴染みのある材料なので、人間にとって優しい建物を作れる可能性があると思った。今までRC造でしかできなかった街中のビルなどの大規模建築物が、木造に変わる意義は大きいと思う。

—RC造と比べ設計・施工上の違いは？—

木造は部材の接合が難しい。鉄はボルトで繋げる。コンクリートは現場で流し込んで一体化することが出来る。木材も金物で繋ぐことができるようになってきたが、まだまだ改良が必要だ。また振動・音

や火災への対応も課題だろう。

CLT建築は始まったばかりで、マニュアルや指針が少ない。しかし、そのような中でもチャレンジする人が増えてくると、だんだんいいものが出来上がっていくと思う。

—CLTを普及させる上での技術的な課題は？—

ひとつは耐火性の問題がある。日本は海外と比較して基準が厳しい。今の基準では五階以上の建物で二時間耐火性能を求められる。これだと石膏ボード等での被覆が必要となり、せつかくの木が見えなくなってしまう。

自由度が制限される法令のあり方も考える必要がある。林野庁がCLTを普及したいといっても、現行の建築基準法の下ではなかなか進まない。例えばスプリンクラーがある施設とか、火事が起きてもすぐ逃げられる設計になっていれば耐火の基準を緩和できるようにするか、行政には検討してほしい。

CLTが普及している欧州では「木材あらし」の建物が多い。これは設計者が新しいものにチャレンジしようとしたときに、行政もバックアップし、応援してみんなで作ろうという風土が欧州の国々にはあるのだと思う。日本は例外や特例等

を設けて新しいことへのチャレンジをサポートする人が規制側に少ないように感じる。

—協議会で東北大学のセミナーハウスの建築が進められているが、どのような施設か？—

セミナーハウスは協議会内に設置した指針・施工部会で、多くの方が参加して様々な新しい取組をした施設。設計にも実験的な要素を色々取り入れている。例えば、嵌合(かんごう)接合を採用している。これは金物の使用量を減らして、木同士をかみ合わせてつなぐ接合法で、実験で性能評価を行ってかなりいい結果が出た。ただ、これも評価機関の確認申請では、今までに無い新しい接合の方法なので適否の判断ができず、第三者機関での評価が必要とされた。

—CLT建築に対する学生の反応は？—

実際に建物を作る経験をしたり、新たなテーマを取り入れたたりすることは、学生にとって大きな刺激となっている。人材育成の観点から若いうちから木構造を勉強するのは重要と考えている。好奇心旺盛で新しいことにチャレンジできる学生を育てていくと共に、教育や研究の成

果をCLTの普及に活かしていきたい。

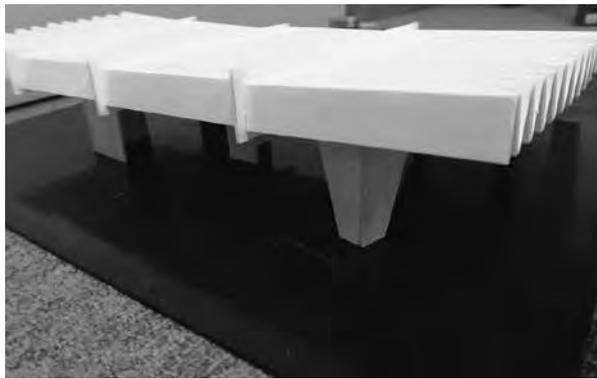
—『勝手に設計隊』が組織されたが状況は？—

勝手に設計隊は、協議会会員の中から意欲ある設計・施工者を募り自ら技術提案を行っていく技術部会である。RC造は構造計算も含め設計方法が確立されているが、木構造の設計者は手探りの状態だ。前例もなく、構造計算ソフトも少ない。勝手に設計隊のような形で設計事例や経験を蓄積していくことが重要だ。

「木造は設計に手間がかかる」「コストを下げないと普及しない」という意見もあるが、卵が先かニワトリが先かの議論。技術を確立して普及していけばコストは下げられるはずなので、誰かが先陣を切らなければ進まないと思う。一方で、木には木の良さ(見た目や香り、肌触り)や付加価値(温暖化防止に貢献)があるので、コストだけでは測れないメリットをアピールすることも重要なことだと感じている。

コスト競争においては、RC造と同じかRC造より安くできるという点で攻めていくか、RC造や鉄骨よりは少し高いけどもっといいものができるという点で攻めるかだと

思う。本当は後者が望ましい形で、これが受け入れられる社会になればいい。東松島市の宮の森小学校は木材をふんだんに使っていて、自分の子供を通わせたいと皆思うだろう。CLTでもこの考え方が受け入れられる余地はあると思うし、前例がない分、今までの木造には無いものができたと言えるようなものにチャレンジしたい。



設計隊の委員が作成したCLT建築物のパース。前例が無い中でのチャレンジは続く。

—県は協議会を通じてオール宮城での取組を目指しているが、産学官の役割分担としてどんな形が望ましいと考えているか？—

産(技術者)が積極的に推進し、官(県)や学(大学)がそれを支援する

のが理想。自ら新しいことにチャレンジしてみようという会社や技術者が沢山でてきてほしい。

また、勝手に設計隊は人材育成も大きな目的。せっかく公的補助金など、行政の支援があるので、設計隊の様々な活動を通して、宮城県のCLT建築を推進するグループを作りたいと考えている。林業・木材産業の側も、受注を待つのではなく、積極的に設計者にCLTを売り込むといった発想の転換をしてはどうか。いずれCLTに対する補助金は無くなるので、今のうちに中心となるメンバーを養成し、徐々にその輪が広がっていく…そんな形になったらいいと思う。

—最後に前田研究室の今後の展望や構想は？—

日本の大学では、まだまだ木構造の授業が少ない。学生や設計・建築事業者に向けて木造への取組を広げていきたい。

また、CLTを普及する上でシンボリックな施設を建設することも重要だと思う。しかし、周りの景色を眺めたときに、普通の建物が当たり前前に木造で建っていることが実は大事じゃないかと思う。それが本当の意味で普及。何の変哲もないビルが木造で建ちましたということ

が実現したらすばらしい。木の香りがして、いい空間だねと言われる建物がどんどん建つようになればいいと思う。仙台は杜の都なんだから。チャンスがあれば仙台市役所の建替も勝手に設計隊が木造で提案してみたい。みんな無理っていうんだけど(笑)。



「勝手に設計隊」技術部会の状況
左から3番目が前田先生

プロフィール

東京大学工学部建築学科卒業。同大学院建築学専攻修了。横浜国立大学工学部建設学科助教授を経て2000年から東北大学大学院へ。2011年から現職。出身地：神戸市。趣味：旅行、サッカー。

新たな県産材の活用 「CLT」の普及を 推進しています

「CLT (Cross Laminated Timber)」は、「直交集成板」とも呼ばれ、複数のラミナ(ひき板)を、繊維の向きが互い違いになるように貼り合わせ、反る・割れるといった木材の弱点を克服した欧州発祥のパネル材です。

この県産スギを活用したパネル材は、従来の木質建材に比べ強度に優れ、遮炎性や遮音性も期待できることから、コンクリート・鉄骨に代わり、中層以上の建物が木造で建築できる、そんな可能性を秘めた新たな資材として、今注目が集まっています。



みやぎ県産スギCLTのPR

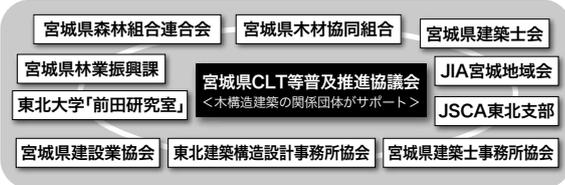
現在 県内では、東北大学工学部キャンパスでモデル施設の建設が

トしているほか、仙台市内で「CLT」を活用した賃貸住宅が着工するなど、複数の建築プロジェクトが動き出しています。

県では「CLT」の本格的な普及に向け、「宮城県CLT等普及推進協議会」と協力し、設計技術者の育成や、より良い使い方(工法)の研究など、産学官が連携した「オールみやぎ」でのCLT建築の普及を進めています。また、持続可能な森林経営と林業の成長産業化を目指し、県産CLTを用いる建物の建築に「県産材・木のビルプロジェクト推進事業」を通して、施工助成も行っています。

エコで環境に優しいCLT。市街地やオフィスで「エネルギーロス」の少ない、木のぬくもりあふれる空間の普及に向けて、関係者と連携しながら取り組んでまいります。

(林業振興課
みやぎ材流通推進班)

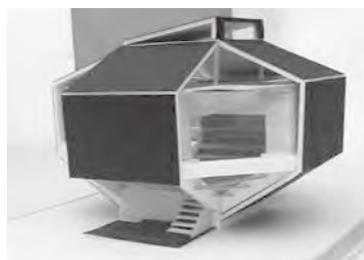


産学官連携の「CLTモデル施設」が建設されます

宮城県CLT等普及推進協議会では、平成二十八年度から、県産CLTを使った木造施設の建設を管内の東北大学と協力して進めてきました。このCLTモデル施設は「東北大学都市・建築学専攻セミナールーム」として青葉山キャンパス内に建設され、建築を学ぶ学生や県内の木材・設計・建築関係者への新しい木造建築の広報拠点としての活用が計画されています。

建築に当たっては、基本計画を東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻の三人の先生が担当しました。意匠を担当した石田教授は、今までのCLT建築には前例の無い、多面体で大スパンの主要構造材が見えるスタジアム形状の階段教室をデザインしました。構造を担当した前田教授は、昨年四月に告示されたCLTパネル工法に基づいた構造設計とCLTを木ダボでつなげる嵌合接合をこの施設の独自の接合方法として採用しました。また、施設を担当した小林准教授は、断熱性能の高いCLT

Tの特徴を活かした空調システムを計画しました。



完成イメージ

基本計画に基づいて、今年十二月末までに完成する予定です。今までに無いデザインと新しい技術を駆使したこの施設の工事是非御見学ください。



起工式

(仙台地方振興事務所)

南三陸町の復興商店街 ……オーブン……

震災から六年、被災地「南三陸町」の復興がまた一つ歩みを進めました。町の復興を象徴する木造の商業・交流施設を御紹介します。

■南三陸さんさん商店街 (志津川地区に平成二十九年三月三日オープン)

木造平屋建ての店舗等七棟からなり、延べ床面積は三千八十五平方メートルに地元商店の水産加工品や飲食店など二十八店舗が軒を連ねました。木材は



南三陸さんさん商店街

地元南三陸町の無垢スギ材が外壁材やルーバー(外装の棧木)に多用され、森や海との環境循環を目指す町のシンボルと

してふさわしいシンプルでさわやかな印象です。

■南三陸ハマール歌津 (伊里前地区に平成二十九年四月二十三日オープン)



ハマール歌津

七百八十二平方メートル。こちらも町産スギ材が使われていますが、県内初FSC認定森林から調達した木材が使用されているのが特徴です。

どちらも建築家隈研吾さんの復興デザインで、運営を担う株式会社南三陸まちづくり未来は、「交流拠点であるとともに、町全体の復興へのチャレンジにしたい」と話していました。皆さんの特別な思いがこめられた建物です。

(気仙沼地方振興事務所)

栗駒高原森林まつりが 開催されました

去る四月十五日(土)、『栗駒高原森林組合』が開催されました。

この催しは同森林組合の主催により毎年春に開催されており、栗原産木材を活用した体験コーナーや地域産品の展示即売など、様々なイベントで盛り上がりがあります。

毎年、自分で組み立て作業ができる木工教室コーナーは人気があり、順番待ちの列が途切れることはありません。

ほかにも竹を芯材に使ったバウムクーヘン作りや、薪割りなどの体験型イベントのほか、巧みな技が光るチェンソーアートの実演などのイベントが行われました。

特に、チェンソー競技大会は、実際に林業の現場で活躍されている方々の華麗な技術を間近で見られる、森林組合ならではの目の離せない催しとなっていました。

会場では、栗原産しいたけやきのこ原木・ほだ木、苗木や花のほか、お菓子や軽食なども販

売され、当日は、千人を超える来場者で賑わいました。当事務所は毎年さまざまな形で参加していますが、今年も、県産材を使用している工務店による建築相談と併せて、県産材のPRや県内の森林・林業に関する広報や相談を受け付けました。



親子で鉋掛けを体験

栗駒高原森林組合は地元の方々との結びつきが強く、栗原地域の森林整備、林業振興の中心的役割を担っています。当事務所は、これからも同森林組合と協働して、森林・林業の普及啓発に取り組んでいきます。

(北部地方振興事務所
栗原地域事務所)

松くい虫被害材の有効活用！ バイオマスボイラー稼働！

東松島市宮戸地区に震災復興のシンボルとなる宮戸地区復興再生多目的施設(愛称「セルコホームあおみな」)が完成し平成二十九年四月十五日に落成式が行われ、五月一日から使用が開始されました。

敷地面積約七千八百平方メートルに木造平屋の市民センターと観光物販スペースの地域連携販売力強化施設や新規就農技術習得管理施設、農林水産業体験施設が整備されました。

本施設の基本設計では、「地域に存在するエネルギーを利用することによる自然と共生した



宮戸地区復興再生多目的施設
(愛称：セルコホーム あおみな)



木質バイオマスボイラー本体
(100kwと200kwの2基)

一次産業と観光の再生をコンセプトとした地域づくり」を目標に掲げており、太陽光発電や木質バイオマスボイラーなど地域資源を活用した持続可能なエネルギーシステムが採用されています。

木質バイオマスボイラーは熱出力百キロワットと二百ワットの二基が設置され、温水は発電や床暖房等に利用されます。年間の原木の消費量は約一千三百立方メートルと見込まれ、松くい虫被害材や石巻圏内の間伐材等をチップ化し活用する計画となっています。

東松島市の平成二十八年年度の松くい虫被害量は一千七百八十六立方メートルと県内の被害量の約一割を占めており、木質バイオマスボイラーの稼働により、松くい虫被害材の有効活用が期待されます。

(東部地方振興事務所)

竹の伐採現場に 密着取材！

竹は、林業の世界では侵入竹などと呼ばれ、人工林などでは邪魔者扱いをされていますが、石巻地域では牡蠣養殖棚の材料として竹材に大きな需要があります。今回は、石巻市(旧河北町)の下山竹材の竹の伐採現場に密着し、伐採・枝払い・集積の一連の工程を見学するとともに、竹材業が抱える課題等について聴取しました。

下山竹材は、竹伐採を行う複数の担い手と結びつき、伐採した竹の集荷作業、土場における選別作業を行い、各方面(遠くは青森まで)に年間一万束以上の竹材を出荷しています。



土場に集積された竹材

竹材の規格は、その用途に応じて、孟宗竹や真竹といった竹の種類のほか、太さや長さ別に多



真竹の伐採作業の様子

種多様であるため、担い手個人が顧客からの様々な注文に対応するには限界があります。

このため、ある程度の量と規格を揃えながら、市場機能としての役割を果たす下山竹材の存在は非常に重要です。

竹の伐採現場では、熟練の職人がスピーディに手際よく伐採・枝払いの作業を行っています。負荷や危険が比較的少ない作業なので、高齢になっても仕事を続けられ収入を得られるのがメリットとのことでした。

今後、侵入竹被害の拡大も見据えながら、竹伐採の担い手確保や竹材の集荷・選別機能の強化に向けた取組支援が喫緊の課題であると実感しました。

(東部地方振興事務所)

シカに食べないワラビ栽培!

石巻地域では、猫の島で有名な田代島や女川町において、ニホンジカの被害を受けにくく地域の特産物にもなり得るワラビ栽培に取り組む動きが広がっています。

ワラビ栽培を始めるに当たっては、ワラビの栽培研究に長年取り組んでいる山形県森林研究研修センターの中村研究員に現地指導を仰ぎました。

田代島では、ワラビの栽培スケジュールや継続してワラビ園として維持する方法等について説明を受けたほか、島内のワラビ栽培適地について現地調査を行いました。また、女川町では実際にワラビの親株から地下茎



栽培実演講習会の様子



ポット移植2ヶ月後の様子

を分割しポットに移植する作業を体験しました。今回移植した地下茎からの発芽率は非常に高く、約九〇%となりました。

発芽したワラビは、今後成長するに従って多量の水を必要とすることから、適切な水管理を行いつつ、七月中には定植を完了させる予定です。

石巻地域は、ニホンジカによる被害が著しく、その対策のためコストが余計にかかっている状況です。新たに特用林産物の生産を始めるに当たっては、被害を受けにくく、栽培コストを抑えられるものを選定する必要があります。今後とも、適切な栽培指導を行いながら、生産者の定期的な収入の確保に結びつけたいと思います。

(東部地方振興事務所)

大崎市鳴子温泉郷に「ゆの駅しんとろ」直売所が開業しました

平成二十九年四月十八日に、大崎市鳴子温泉郷中山平温泉に農林産物直売所「ゆの駅しんとろ」が開業しました。

この建物は、木造平屋建てで床面積二百三十四平方メートル、内部は売店、食堂、漬け物工場の間取りとなっています。使用木材量は四十立方メートルで、構造材には宮城県産材でも特にグレードが高い「優良みやぎ材」を主体に使用し、売り場部分の構造体(柱・梁)を外に出し、木の香りや視覚効果など、ぬくもりが感じられる造りとなっています。

また、来店された方々に宮城県産材の魅力をPRし、利用していただくことを目的とした「みやぎの木づかい運動」体験モデル施設にもなっています。

今後、直売所では地域交流の場として地場産品(山菜・茸等)の試食販売会、その他イベントの開催を計画し地域活性化を図りたいとのことであり、事務所でもこうした取組に対して支援を行っていくとともに、宮城県

産材の普及に努めていきます。



直売所外観



直売所内部(売店の状況)

(北部地方振興事務所)

「宮城の原木椎茸 見学ツアー」を開催

平成二十九年四月二十三日（日）に、登米市東和町の原木しいたけ生産者芳賀裕氏の栽培地において、あいコープみやぎと連携し、仙台圏の消費者の参加のもと「旬は今！宮城の原木椎茸見学ツアー」を開催しました。今年で二回目となるこの催しは、露地栽培原木しいたけの生産再開の状況を消費者自身の目で確認していただくことで、風評被害等の軽減を図ることを目的として開催しています。



しいたけの栽培状況の説明

当日は、あいコープみやぎの方の引率の元、一般のご家族

四十五名が参加し、芳賀さんの栽培地において、露地栽培の状況と栽培管理についての講習のあと、スギ林分内に設置した屋外ほだ場で収穫体験や、収穫したしいたけを炭火焼きにより試食しました。また、登米市から参加者全員に「ひとめぼれ」が贈呈されるなど、芳賀さんのしいたけと合わせ、登米市農産物のPRを行うこともできました。



収穫したしいたけの試食の様子

当事務所では、あいコープみやぎ等の消費サイドとの交流を登米市とともに積極的に推進し、原発事故前の水準を目標に原木しいたけの安定的な販路の拡大に努めていくこととしています。

（東部地方振興事務所
登米地域事務所）

安全な特用林産物の 供給についてのお願

県内のきのこ・山菜類については、福島第一原発事故後、放射性物質の影響により、平成二十九年七月末現在において、次のとおり二十一市町村、十一品目で出荷制限指示又は出荷自粛の措置がとられています。

◆ 出荷制限

原木しいたけ（露地）	石巻市、白石市、名取市、角田市、東松島市、富谷市、蔵王町、村田町、丸森町、色麻町
野生きのこ	仙台市、栗原市、大崎市、村田町
たけのこ	栗原市（旧築館町、旧志波姫町、旧清水町、旧瀬峰町除く）、大崎市（旧三本木に限る）、丸森町（旧耕野村、旧丸森町、旧小斎村除く）
くさそで（こごみ）	栗原市
こしあぶら	気仙沼市、登米市、栗原市、大崎市、七ヶ宿町、大和町、南三陸町
ぜんまい	気仙沼市、大崎市、丸森町
たらのめ（野生）	気仙沼市、栗原市、大崎市

◇ 出荷制限【一部解除】

原木しいたけ（露地）	仙台市、気仙沼市、登米市、栗原市、大崎市、七ヶ宿町、川崎町、大和町、大衡村、加美町、南三陸町
------------	--

● 出荷自粛

わらび 大崎市

○ 出荷自粛【一部解除】

原木なめこ 気仙沼市
原木むきたけ 栗原市
原木しいたけ（施設） 大衡村

出荷制限指示又は出荷自粛の措置が講じられている品目は、直売所等で販売することは出来ませんので御注意ください。

また、野生きのこ・山菜類は、出荷制限指示を受けていない地域・品目においても、出荷前に放射性物質検査等で安全を確認したものを出荷するよう御協力願います。

なお、県では、出荷制限・自粛品目のモニタリング検査等を実施し、安全が確認出来た品目については、関係機関と調整しながら出荷制限指示及び自粛の解除に取り組んでいます。

（林業振興課地域林業振興班）

林道二口線の整備について

林道二口線は、昭和四十八年に開設された仙台市秋保地区と山形市山寺地区を結ぶ全長約十九キロメートルの林道です。

二口渓谷沿いの優れた景観美を楽しめる林道で、沿線には、国指定名勝の「磐司」や国指定天然記念物の「姉滝」など見所が豊富で、春の新緑や秋の紅葉シーズンを中心に、県内外から多くの観光客が訪れます。

また、このルートは、古くは仙台と山形を結ぶ街道として仙台藩が番所を置くなど、歴史・文化的な背景を持つ路線です。

これまで、宮城県側の約十キロメートルのうち、約半分は未舗装でしたが、この度、国の地方創生予算を活用して、未舗装区間の舗装を行う目処がようやく立ちました。

工事は本年七月から着手し、舗装工事を先行して実施します。さらに来年度は崩落等の危険がある法面についても改良工事を実施する予定としております。

工事期間中は、県民の皆様には通行止等により御不便をおか

けしますが、二口林道の整備により、秋保地域の活性化や山形県との相互交流が促進されるよう努めてまいりますので、工事への御協力と御理解をお願いいたします。



国指定名勝「磐司」



展望台からの眺望(仙台方向)

(林業振興課林業基盤整備班)

再び荒浜地区の憩いの場所へ 蛭塚植樹祭の開催

東日本大震災の津波で流出した亘理町荒浜地区鳥の海湾内にある島「蛭塚」で、平成二十九年四月八日に県と町、地元で防災林再生を担うNPO法人「わたりグリーンベルトプロジェクト」が主催し、蛭塚植樹祭を開催しました。この植樹祭は、県が平成二十七年から実施している防災林造成事業について、地域住民から、是非手伝いたいとのお声掛けをいただき実現したものです。当日は荒浜地区の住民を中心に町内外から百三十名の参加があり、コナラやシラカシ、シロダモなど地域の自然植生として確認されている広葉



植樹の様子

樹の苗木約一千三百本を一本一本丁寧に植樹しました。

震災前の蛭塚は自然環境を利用した散策路が整備された島で、マリンスレンジャーブリッチ(橋)により誰でも自由に行き来ができたことから、荒浜地区を訪れた人々の憩いの場所となっていました。このことから防災林造成事業実施にあたっては「再び地域の方に親しまれる島となること」を目標とし、環境アドバイザー等の専門家からアドバイスを受けながら、町や地元関係者との意見交換を行い、その意見を事業に反映させていきます。



蛭塚植樹祭上空から

今回、植樹された苗木がすくすくと成長し、一日も早く地区の憩いの場所へ戻るよう、県としても引き続き適切な保育を行っていきま

(仙台地方振興事務所)

松島の松くい虫対策について

仙台地方振興事務所管内には、特別名勝「松島」地域をはじめとした、守るべき重要な松林が数多く存在します。

当管内における昨年度の松くい虫被害量は、前年度から比べて若干減少はしているものの、未だ被害が終息していないため、適時防除等の対策を進めて行かなければなりません。

松くい虫被害対策は、被害を未然に防ぐ薬剤散布、樹幹注入といった「予防対策」と、既に被害が確認された松を伐倒し、薬剤処理あるいは破碎処理（チップ化）する「駆除対策」に分けられます。

特別名勝「松島」地域において



空中散布実施状況



地上散布実施状況

は、被害の早期発見・駆除はもちろんのこと、「予防対策」を継続して実施することが重要となります。

県では今年度もヘリコプターで薬剤を散布する空中散布事業を、松島町と共同で町内約百畝において、六月十七日に実施しました。

また、動力噴霧器等を用いて薬剤を散布する地上散布事業も、松島町ほか大衡村万葉の森等三町村で、合計約七十五畝において実施しました。

新たに発生した被害については、「駆除対策」により被害木を速やかに伐倒し、被害の拡大を防いでまいります。

今後も、管内の松林を被害から守るため、引き続き精力的に対策を努めて参ります。

(仙台地方振興事務所)

仙台トヨペット

緑化木贈呈式について

県では、昭和五十一年から毎年、仙台トヨペット株式会社から社会貢献の一環として「人の心に緑の憩いを」をスローガンに緑化木の贈呈を受けており、その本数はこれまで六千三百二十本になっていきます。

四十二回目となる今年度は、六月九日に県庁で贈呈式が開催され、仙台トヨペットの佐藤代表取締役社長から村井知事に目録が贈呈されました。また、緑の大使であるミス・インターナショナル日本代表の筒井菜月さんからは、アオダモの苗木が手渡されたほか、公益社団法人国土緑化推進機構理事長からの緑の大切さを伝えるメッセージが読み上げられました。

今回寄贈いただいた苗木は、今年十二月三日に丸森町で開催予定の「みやぎバットの森植樹祭」でスポーツ少年団や地域住民の皆様の手で植栽され、大切に育てられることになっていきます。



メッセージの紹介



苗木の贈呈

(自然保護課みどり保全班)

市民参加の新たな 森林づくり・春 植樹祭を開催

平成二十九年五月二十一日（日）に、「平成二十九年度市民参加の新たな森づくり・春」が、登米市と宮城県の共催により開催されました。このイベントは地球環境にとって大切な資源である森林を次代に引き継ぐため、市制施行の平成十七年から開催しているものです。

十二回目となる今回は、登米市津山町の登米市有林において、宮城県が開発した花粉の少ないスギの苗木九六〇本の植樹が行われました。

当日は晴天に恵まれ、一般の御家族、企業での参加など、約



植樹の様子

百名の市民が、植えた木々の生長と、豊かな森になることを祈りながら、一本一本丁寧に植樹を行っていました。

また、「わたしの記念植樹」会場では、四十名の家族が、子供の誕生や結婚などを祝した記念の標柱を設置しました。



参加者による記念撮影

植樹終了後には「道の駅津山もくもくランド」の円形広場でエコ戦隊ショーが開催され、森林や環境について理解を深める有意義な一日になりました。

秋には登米市東和町米川地区での植樹祭が計画されています。

（東部地方振興事務所

登米地域事務所）

「コカ・コーラ 「森」学ぼうプロジェクト (Ingehoの森づくり蔵王) の活動」

「みやぎの里山林協働再生支援事業」を活用し、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社は、平成八年に蔵王町、円田生産森林組合、白石蔵王森林組合と水源涵養に関する協定を締結し、五カ年で五千本の広葉樹を植樹する活動を開始しました。

この植樹活動は、協定を更新しながら実施されており、長期的な水源地の森づくりが着実に進められています。



参加者のみなさん



植樹作業の様子

今年度は、六月三日（土）に開催され、一般の参加者と関係者が総勢二百十二名参加しました。

森林組合の職員による丁寧な植樹指導の後、千本の広葉樹（ヤマザクラ、ユナラ、イタヤカエデ）が植樹されました。

他にも、スギの伐倒作業が披露され、会場は賑わっていました。

当該地は、湧き水が多数みられ、うるおいの森づくりの名にふさわしい場所でした。参加された方々には、日頃何気なく口にかけている飲料水が、森によって育まれていることを学んでいただけたことと思います。

（大河原地方振興事務所）

平成二十九年 林業試験研究 及び種苗生産計画の概要

■はじめに(基本方向)

林業技術総合センターでは、平成二十六年に策定した「宮城県林業試験研究構想」において、本県の林業試験研究の目指す方向性を「活力ある林業宮城を実現する技術開発」及び「美しい森林づくりを推進する技術開発」と定め、実効ある試験研究に取り組んでいます。

平成二十九年において、森林や林産物の放射性物質対策や海岸防災林の再生に関する研究など「みやぎ森林・林業の震災復興プラン」に基づく試験研究に優先かつ重点的に取り組むほか、CLT等の新しい県産材需要開拓やスギ花粉症対策など社会的ニーズに対応した研究についても積極的に推進してまいります。また、海岸林再生や花粉症対策を進める上で重要な林業用種苗の生産については、「宮城県林木育種事業推進計画」に基づき、苗木の需要量及び社会的な要請を把握した上で、採種・採穂園の適正な管理と併せ、安定した種苗供給を図ってまいります。

■平成二十九年の重点的な研究分野と主要な研究課題
【活力ある林業宮城を実現する技術開発】

①「森林や林産物における放射性物質の拡散による影響等の解明と改善・制御技術の開発」

放射能汚染により県内からの放射性物質の拡散が難しくなっている中、原木林のモニタリングや萌芽更新による原木林再生の可能性を検討します。また、自

自生山菜の汚染状況測定



生山菜の汚染状況測定や汚染低減化試験による生産再開に向けた管理手法等について検討します。

②「県産材の多面的利活用技術の開発」

スギ大径材を長尺の梁桁材に活用するための性能試験や県産スギ材によるCLT(直交集成板)製造に向けた構成部材(ラミナ)の特



県産スギラミナの強度測定

性把握、県産スギ材のツーバイフォー住宅部材への活用に関する調査など、県産材の活用に向けた調査研究を行います。

③「持続可能な森林経営に向けた新たな管理技術の開発」

効果的なニホンジカ被害対策の推進に向けた生息分布や密度、森林の下層植生の状況を調査し、ニホンジカの生息実態を把握するほか、ニホンジカの強度採食により荒廃した森林における低コストな復元手法を検討します。

【美しい森林づくりを推進する技術開発】

④「海岸防災林の再生に向けた造成、育苗及び管理技術の開発」

震災復興事業による植生基盤盛土における広葉樹の植栽技術の提案に向けて、広葉樹植栽苗の活着性、健全性及び生長量の把握や種子の確保に関する検討を行います。

⑤「優良品種の確保と種苗の安定供給に向けた技術の開発」

社会的な課題となっている花粉症対策の推進や海岸林の再生促進に向け、県産少花粉スギ品種及び松くい虫抵抗性クロマツの簡便で低コストなコンテナでの増殖方法の開発や、本県に適

応した無花粉スギ品種の開発を進めます。

このほか、ナラ枯れ被害拡大防止を目的とした効率的な防除や、菌根性きのこの人工栽培に関する研究など、本年度は十四の研究課題に取り組みます。

■平成二十九年 林業用種苗供給計画

【一般造林用種苗】

スギ種子	四十キログラム
ヒノキ種子	五キログラム
アカマツ種子	五百グラム
クロマツ種子	一キログラム
【海岸防災林造成用種苗】	
松くい虫抵抗性クロマツ種子	二十キログラム
【スギ花粉発生源対策種苗】	
少花粉挿し穂	七万本
少花粉種子	一キログラム



少花粉スギ挿し穂の育成

当センターでは、引き続き、スギ花粉発生源対策の推進や主伐後の再造林拡大に向けて、安定的な種苗の供給と増産に

取り組んでまいります。(林業技術総合センター)

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(平成29年6月)

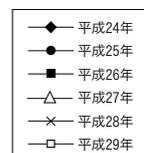
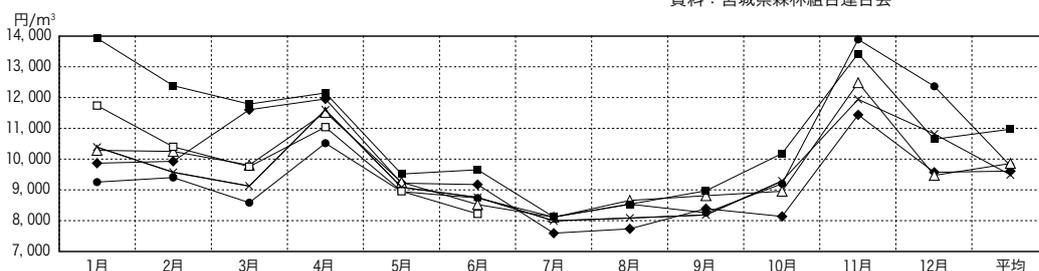
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)					
			仙南	仙北	東和	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	7,200	9,000	—	—
		16~30	10,800	—	—	—	—	—
		20~30	—	—	—	—	7,200	—
	4.00	10~13直曲	7,200	7,200	7,200	8,280	7,200	—
		14~18	10,000	8,000	7,200	8,280	7,200	—
		20~28	—	9,000	9,000	—	—	—
		30上	—	9,500	9,500	—	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	10,080	—	—	9,500	8,640	—
		30上	10,080	—	—	10,080	9,000	—
1.95	16上	—	6,120	6,120	6,120	6,120	—	

資料:宮城県森林組合連合会

概況

素材動向

各センターの入荷は急激な減少となった。出品は少なかつたが、新材になったこともあり価格は大径材を除き全て値上がり傾向での動きになった。今後も材不足の影響から値上がり傾向の動きになると思われる。



素材: 県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成24年	939	875	798	755	611	711	707	785	829	882	835	1,004
平成25年	989	918	890	814	827	730	730	802	840	880	903	1,009
平成26年	1,010	1,001	917	781	851	859	891	912	911	874	981	1,094
平成27年	1,144	1,055	984	916	886	766	852	948	960	970	962	1,038
平成28年	1,037	1,025	972	946	965	955	961	977	1,018	1,014	998	1,054
平成29年	1,034	945	861	862	890	775						

資料: 仙台中央卸売市場

概況

平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、全国的な品薄状況を背景に単価は徐々に回復してきている。平成28年次は対前年比+37円と震災のあった平成23年と比べ単価が大幅に上昇している。
平成29年前半は、夏場に向け価格が下落している。
なお、平成28年次の県産しいたけの入荷量は340t(前年比62t減)であり、市場占有率は67%(前年比6ポイント低下)であった。

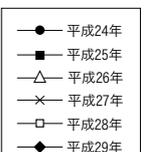
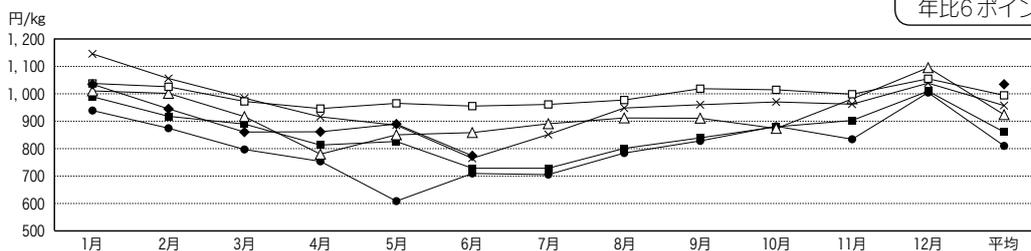


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(平成29年5月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成29年5月(戸)	1,398	1,164	234	83.3
平成28年5月(戸)	1,793	1,254	539	69.9
前年同月比(%)	78.0	92.8	43.4	—
平成28年6月~29年5月(戸)	21,649	15,365	6,284	71.0
平成27年6月~28年5月(戸)	27,408	18,251	9,157	66.6
前年同期比(%)	79.0	84.2	68.6	—

資料: 住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

5月の新設住宅着工戸数は前年同月比で減少し、減少傾向は続いている。
5月までの累計比でも前年を下回っている。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本 社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営 業 所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工 場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

明治 41 年創業
~100 年かける家づくり~



自然との共生 めぐるめぐみ をテーマに
私たちは自然を愛し、大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理 事 小澤 幸三
理 事 佐々木 市夫
監 事 阿部 貢夫
監 事 一條 英夫

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会 長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
副会長 山形 喜昭
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

見て触れて 住んでしみじみ 木の住まい 宮城県木材協同組合

理事長 佐藤 豊彦

みやぎ材利用センター

■利用センター総合窓口 ☎022-239-2661

- 建築資材部((株)仙台木材市場) ☎022-239-2011
 - 土木資材部(宮城県森林組合連合会) ☎022-345-2205
 - 合板資材部(石巻地区森林組合) ☎0225-93-1711
- センター本部 (県木協)

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL : 022-233-2883 FAX : 022-275-4936

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代 表 理 事 遊佐 勘左衛門
事 務 局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本 社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807

E-mail info@tutuikoki.co.jp
U R L http://www.tutuikoki.co.jp

地域林業の活性化と農山村地域の振興・発展に貢献

林業従事者の退職金共済・社会保険への助成，林業就業支援講習・「緑の雇用」現場技能者育成研修・森林・林業人材育成加速化事業等の実施，就業相談会の開催，林業関係雇用情報の収集と無料職業紹介等を行っています。

公益財団法人 みやぎ林業活性化基金 宮城県林業労働力確保支援センター

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2丁目4-46 宮城県森林組合会館内
TEL 022-217-4307 / FAX 022-226-8767

森林は大切な資源です

森林整備を通して

美しい森林を未来に伝えます



一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

緑の募金

にご協力ください

未来へと 植えて育てる 緑の輪

(平成29年 国土緑化運動標語)

春期募金期間 3月1日～5月31日

秋期募金期間 9月1日～10月31日

蘇れ！緑の松原！

「海岸防災林再生植樹活動」 参加者を募集します！

日 時 平成29年10月22日(日) 午前10時開始

場 所 岩沼市寺島川向

募集人数 120名程度 (参加費 無料)

募集期間 平成29年10月2日(月)必着

詳しくはHP(<http://miyagiryokusui.com/sea/>)をご覧ください。

公益社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)等を通じ、森林の公益性発揮を
目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46

TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166

東和木材センター 0220-45-2240

大衡総合センター 022-345-2205

津山木材センター 0225-68-3038

岩出山木材センター 0229-72-1877

■樹木の枝や根の有効利用は

ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

◎花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木生産・海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木生産

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号

TEL (022)222-3661 FAX (022)222-3688

林業の^今を伝える月刊誌

平成29年度の
購読申込受付中!!



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 2,800円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501

FAX 022-301-7502